

日本語教育メディア・システム開発部門報告

村上京子・石崎俊子・佐藤弘毅

日本語教育メディア・システム開発部門（JEMS）では、2011年度に以下の活動を行った。

1. 「留学生のための専門講義の日本語」Web公開
2. オンライン日本語コースの改訂と運営
3. iPad やスマートフォン対応教材の作成・公開
4. 委託事業（とよた日本語学習支援システム）e-learning 教材の完成

1. 「留学生のための専門講義の日本語」

2010年にG30プログラムの一環として作成した『留学生のための専門講義の日本語』をオンライン化し、学内外のどこからでも利用できるように下記のサイトでWeb公開した。

<http://lecvideo.ecis.nagoya-u.ac.jp/>

名古屋大学の留学生はもとより、日本の大学で講義を受けたいと希望している日本国内や海外の日本語学習者に、実際の講義がどのように行われているかを知り、準備をするために、役立ってくれることを願って開発された。

この教材の内容は、第一部「講義に役立つ日本語」および第二部の専門分野の模擬講義のビデオとそれを文字化したテキストと英訳から成っている。分野は、「法学・政治学編」、「経済学編」、「教育学・心理学編」、「数

学編」、「物理学編」、「工学（化学・生物）編」、「工学（機械）編」、「工学（土木・建築）編」、「生命農学編」の9分野に分かれており、基礎的な専門科目の模擬講義が収録されている。それぞれの講義は15分～30分程度で、全編合わせて45の講義があり、ビデオを見ながら、講義の内容をテキストで確認することができる。

2. オンライン日本語コースの改訂と運営

1) オンライン読解・作文コース

<http://jems.ecis.nagoya-u.ac.jp/moodle/>

前期 登録者数：19名、受講者数：11名、

修了者数：5名

後期 登録者数：32名、受講者数：15名、

修了者数：9名

2011年度オンライン読解・作文コースの修了者数(14課中10課以上60%以上の成績)は前期5名、後期9名であった。

終了時のアンケート結果では、全員「特に問題なし」と答えている。教室学習と違い、まったくの自律学習のため、専門の勉学が優先され、最後まで到達できない学習者が目立つ。モチベーションを維持してもらうためには、途中で全員メールによって励ますなど手だてが必要である。「他の学習者の作文も見られるようにしたほうがよい」等の意見も見られたが、これに反対する意見もあり、安易に全員の作文を開示することは慎重にしたい。また、開示する場合もどのような段階のものを学習者間で共有するかは検討が必要である。

2) オンライン漢字コース

<http://jems.ecis.nagoya-u.ac.jp/moodle/>

例年通りのコース運営を行った。

前期 登録者数：18名、受講者数：4名、

修了者数：0名

後期 登録者数：25名、受講者数：9名、

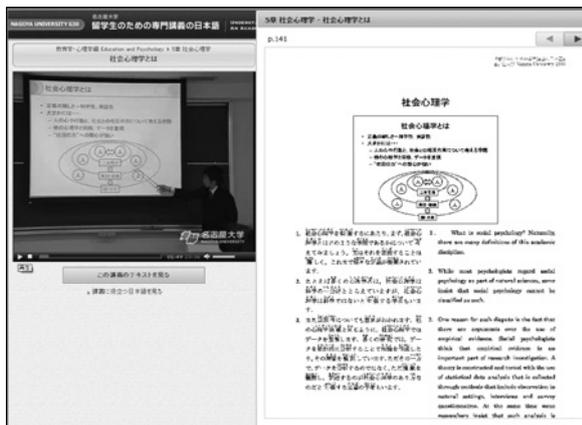


図1 留学生のための専門講義の日本語ビデオ教材

修了者数：2名

2011年度オンライン漢字コースの修了者数（10課中80%以上の成績）は前期0名、後期2名であった

IDとパスワードを配布する際に、学習した漢字を使って文を作る問題の説明を加えたので、やり方がわからないという学習者はいないはずだが、受講者数の増加は見られなかった。解答を提出した学生にはその日のうちに訂正、採点、コメントを必ずつけて返却し、持続を促しているがなかなか結果に繋がっていない。最後まで参加させるための更なる対策が必要とされている。

3. PC・iPad・スマートフォン用日本語教材の作成

<http://jems.ecis.nagoya-u.ac.jp/moodle/>

語彙や文法などを学習するための教材を各種作成し、現在多くの学習者が使っているiPadやスマートフォン等を使って学習できるようにした。

1) クローズ問題 PC・iPad RCQ（穴埋め・選択問題） / スマートフォン RCQ（選択問題）

「あのときの王子くん」アントワヌ・ド・サン＝テグジュペリ著 大久保ゆう訳の物語をクローズ Test形式で作成した。クローズ Testとは日本語文の中で抜いてあるひらがな1字を意味を考えながら埋めていくことによって日本語の運用力を測定するテストのことである。今回はRCQ穴埋め問題とRCQ選択問題の2種類を作成した。どちらもおおよそ20文字ごとに空欄を80ヶ所設け、文の内容に合ったひらがな又はカタカナを穴埋め問題に記入するか、四択問題で選ぶか学習者が選択できるようにした。PCとiPadは両方の問題形式が選択できるが、スマートフォンは画面が小さ



図2 RCQ 穴埋め問題



図3 RCQ 選択問題

く見づらいのと文字の記入が困難なため、選択問題のみを用意した。記入か選択という形式の違いだけで、内容は全く同じであるが、選択問題の方は残り時間が表示される。どちらも回答後に答を保存して送信すると即座に採点され、間違った答にマウスのカーセルを載せると正答が表示される仕組みになっている。

2) 語彙問題 PC・iPad VCQ（穴埋め・選択問題） / スマートフォン VCQ（選択問題）

オノマトペや慣用句などの問題を5種類作成した。問題形式は上記のRCQと同じく穴埋めと選択問題がある。問題数は5問から20問の間用意されており、制限時間は10分である。

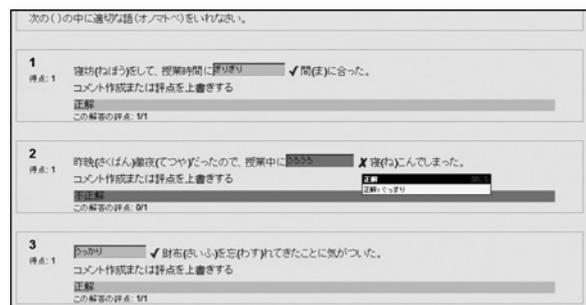


図4 VCQ 穴埋め問題

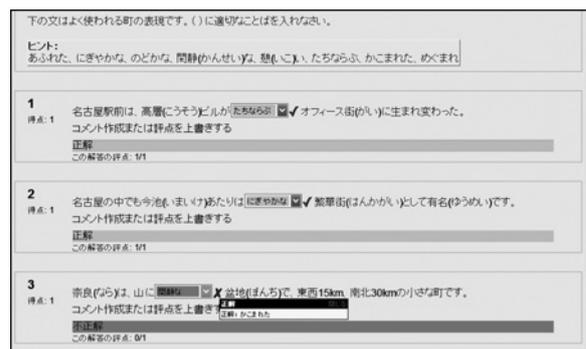


図5 VCQ 選択問題

4. 委託事業（とよた日本語学習支援システム）

TNe とよた日本語 e ラーニングの完成

<http://www.toyota-j.com/e-learning/>

受託事業で開発した「TNe とよた日本語 e-ラーニング」を留学生センター日本語教育メディア・システム開発部門のリンクからアクセスし利用できるようにした。



図6 留学生センター日本語教育メディア・システム開発部門のリンクのページ

又、とよた日本語学習システムのトップページにボタンを作成し、以前より容易に教材にアクセスできるようにした。



図7 豊田日本語学習システムのトップページ

1) 会話教材

- ・主に市役所、病院、学校の5カ国語版の誤字脱字、ビデオや音の不具合などをチェックし、修正を行った。TNeとよた日本語e-ラーニング会話教材は今年度で完成となった。
- ・学校版のページの単語表は翻訳だけではわかりにくい学校生活に関わる単語を選び、イラスト付きで表示させた。



図8 学校版単語のトップページ

2) 文字教材

昨年度まで、ポルトガル語、中国語、スペイン語、英語、日本語（説明のみ）による多言語版を開発してきたが、今年度はひらがな・カタカナ教材の語彙および練習問題について開発を進め、全ての言語について一通り完成させた。ここでは「れんしゅう」の画面例のみ掲載する。(A) ひらがなを読んで正しい発音を選ぶ問題、(B) 発音を聞いて正しいひらがなを選ぶ問題、(C) 発音を聞いて正しいひらがなを50音表から選らで入力する問題の3種類が用意されており、段階を経て学習を進めていけるようになっている。問題文やフィードバックが多言語化されている。

現在のところ、文字教材はWebブラウザがInternet ExploreでFlashプラグインが使用できる環境にのみ対応している。今後はニーズに応じて他ブラウザやiPad等のモバイル環境への対応を検討していきたい。

図9 練習問題の画面例



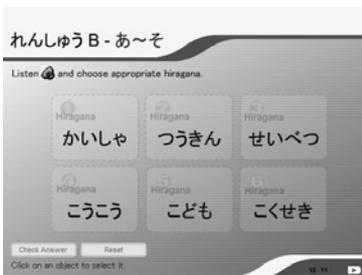
ポルトガル語版・(A) 前半



スペイン語版・(A) 後半



中国語版・(B) 前半



英語版・(B) 後半



日本語版・(C)